

# 月刊 エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2015年(平成27年) 11月号 第15号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 高橋良江  
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

## 第10回 急な連絡福祉車両レンタカーで対応

ターミナルケアを受けている方の介護旅行が「人生最期の旅」としてテレビ放映されたのをきっかけに、同じような境遇にあるご家族からの相談が増えました。

この週末も「急いでいるので、これから同わせてほしい」というご家族から連絡があり、相談を受けることになりました。

この夏、ガンの見つかった父親はすでに緩和病棟へ移り、主治医の外出許可は来週のはじめしかだせないという事です。

釣りが大好きで魚が好物の父親を、家族との思い出づくりに母と孫と一緒に連れて、近くの海まで行きたいという娘の希望でした。

できるだけ海をよく見えるドライブルートをとり、好きな魚を食ってもらい、体調がよければお風呂にも入れてあげたいと思います。すでに食は細くなり、ほとんど食べられないと思うし、疲れやいのでお風呂にも入れてあげられないかもしれない。それでも海の見える宿で最期の時を家族みんなで過ごしたいという話で



▲死にたいとばかり考えていたのに、また行きたいと思った旅でした

### 最期の旅同行 心は家族

し。



### 介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長  
篠塚恭一



1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の従業員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成推進に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組み。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長、NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

実際の予約でしたので介護タクシーは手配できず、お客様にはレンタカーで福祉車両を用意してもらったことになりました。トラベルヘルパーは、介護資格とともに第二種運転免許や国の定めた運転者講習を終えた人もいます。幸いスタッフの手配がつき、最期の旅へ同行してもらったことになりました。

誰の行いが良かったのか、大変よい天気にも恵まれ、ご本人は少し疲れた様子もありませんでしたが、食べきれなかった料理は青ち盛りの孫がたいらげ、終始笑顔の絶えない旅になりました。

トラベルヘルパーの緊張をよそに、本当に明るい家族に囲まれ、無事に病院まで送り届けることができたことと連絡があったときには、担当チームのスタッフもホッと胸をなでおろしました。  
トラベルヘルパーは家族にはなれませんが、家族の代わりにはなれるような気がした一週間でした。